

神経ブロックについて

痛みの治療とは

整形外科を受診される多くの患者さんは、肩こり、腰痛、神経痛、関節痛などを訴えられます。もともと加齢に伴って増加する疾患ですが、「痛み」はどの部位にあっても体力を消耗させ、生活全般にわたる不活発化を招き、活動性を著しく阻害します。

痛みに対する治療としては、まず局所の安静、鎮痛剤の服用、理学療法や運動療法などの保存的治療、神経ブロック、さらには手術的治療など段階を踏んで行われます。

神経ブロックとはどうすることですか？

神経ブロックとは、皮膚の表面より針を刺し神経のすぐそばあるいは直接に神経内に針先を誘導し、刺入した針より局所麻酔薬や神経破壊薬を注入して化学的に神経伝達機構を一時的あるいは半永久的に遮断することを言います。

なぜ、神経ブロックが痛みの治療になるのでしょうか？

ひとが痛みを感じるのは、その原因となる何らかの「痛み刺激」が知覚神経を介して脊髄を通り脳に達して（痛みの伝導）、痛みとして自覚されるからです。（痛みの認識）

「痛み」があると、その部位の筋肉の緊張を高め、血管を収縮させるために、血流が悪くなり、酸素不足となって、通常とは異なった代謝が行われ、発痛物質（ブラディキニン、セロトニンなど）が産生され、また新たな「痛み刺激」となり、痛みの伝導、痛みの認識が繰り返され“痛みの悪循環”が形成されます。

痛みのある部位を支配している知覚神経を局所麻酔薬などで遮断して、痛みを感じないようにしてこの“痛みの悪循環”を断ち切ることで治療効果が発揮されます。

局所麻酔薬には作用時間がありますので、この治療効果が永久に続くわけではありませんが、これは知覚神経のみならずこれらの“痛みの悪循環”の主因をなす交感神経や運動神経にも直接働いて全面的に遮断するために、ここで生体が本来持つ治癒機構が“痛みの悪循環”を元通りにしようと働きます。一回の神経ブロックで“痛みの悪循環”を元通りにできない場合でも、神経ブロックを繰り返すたびに、局所麻酔薬の作用時間よりも長時間の痛みが消失したり、再び戻ってきた痛みが神経ブロック前よりも軽くなったりして階段を下りるように痛みが限りなく“0”になり治癒が期待できます。

「痛み」というのは多くの疾患の重要な警告サインでもあるので、むやみに神経ブロックで「痛み」をとってしまうことは、かえって病気の本質を不明確にしてしまう危険性もあります。しかし、局所麻酔薬を用いた神経ブロックが、一時的に痛みをとることによって、主観的な訴えでしかない痛みがその神経支配領域に由来するものであるという診断とともに治療の手段ともなる有効な方法です。

神経ブロックは、主として麻酔科医が担当します。お気軽にご相談ください。

高田整形外科病院 < TEL088-698-8689 <http://www.takata.or.jp> >